



81 編は **指揮者によって。ギテイト**(ペリシテのガト人由来の弦楽器でないかと考えられている)に合わせて。**アサフの詩。(1)** とあります。

冒頭の **わたしたちの力の神に向かって喜び歌い／ヤコブの神に向かって喜びの叫びをあげよ。(2)** は、礼拝の最初にふさわしい喜びの言葉です。力に満ちた、イスラエルの神への賛美、感謝の思いが漲っています。アサフはシンバルを演奏しますが、さらに、民に向かい **ほめ歌を高くうたい、太鼓を打ち鳴らし／琴と豎琴を美しく奏でよ。角笛を吹き鳴らせ(2)** と、ギテイトだけではなく、聖歌隊の賛歌、あらゆる楽器を用いて、賛美を捧げよと呼びかけています。

詩人は、礼拝は神が命じられた祭り、定めであると言います。イスラエルの祭りである礼拝は、七日ごとの安息日と、最重要な過越祭(除酵祭)、七週の祭り(五旬祭・初穂の収穫)、仮庵祭の三つが定められていました。祭司集団が生まれて祭りも多くなったのでしょうか。神の前に出る時には、必ず、捧げものを持っていきます。そして、詩人の言うように高らかに賛美の叫びを上げたのでしょうか。

詩人は **わたしは思いがけない言葉を聞くことになった。(6)** と、先見者、預言者として出エジプトに際しての神の言葉を民に伝えます。神は **わたしが、彼の肩の重荷を除き／籠を手から取り去る。わたしは苦難の中から呼び求めるあなたを救い(7,8)** と、苦難から救い出したとまず告げ、**雷鳴に隠れてあなたに答え／メリバの水のほとりであなたを試した。[セラ](8)** と、民と共に歩んだと言います。その教えは **イスラエルよ、わたしに聞き従え。(9) あなたは異教の神にひれ伏してはならない。(10)** の二点でした。それを守るならば **口を広く開けよ、わたしはそれを満たそう。(11)** と約束します。

しかし **わたしの民はわたしの声を聞かず／イスラエルはわたしを求めなかった。(12)** と糾弾します。神は **わたしは頑な心の彼らを突き放し／思いのままに歩かせた。(13)** と、民に自由と主体性を与えました。神はそれに応えられなかった民を **わたしの民がわたしに聞き従い／イスラエルがわたしの道に歩む者であったなら／わたしはたちどころに彼らの敵を屈服させ／彼らを苦しめる者の上に手を返すであろうに。(15)** と、民を惜しみます。

詩人はこの神の御心を思い **主は民を最良の小麦で養ってくださる。「わたしは岩から蜜を滴らせて／あなたを飽かせるであろう。」(17)** と、神の愛に立ち帰るように民に勧めます。

『讚美歌 21』では、7「**ほめたたえよ、力強き主を**」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2010-07-04> が関連する讚美歌です。17世紀から歌い継がれてきています。オルガンのパイプによる音色、変奏を楽しむ方は <https://www.youtube.com/watch?v=ue-UyL88Bag> をお聞き下さい。

ジュネーブ詩編歌は複数のリコーダーと、ビオラ・ダ・ガンバ、オルガンの合奏で、清らかに、軽やかに賛美しています。メロディが様々な音色で繰り返されるのも、穏やかな感じですよ。

<https://www.youtube.com/watch?v=xI7rG1CuCBk&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=81>